

Angel's Voice

「地上のオルガニストは 天上のオルガニストになりました」

日本聖公会大阪教区主教・桃山学院学院長
主教 アンデレ 磯 晴久

神様、どうしてですか。そう叫びたくなることが人生には幾度か起こります。特に悲しく寂しく辛いのが、大切な方のお別れです。私たちが敬愛するマリヤ松原晴美姉は、去る10月15日、神様の御許に帰られました。

私たちの一生は、誕生という入口と死という出口の間で営まれます。その入口と出口の向こう側はどうなっているのか。キリスト教の信仰からしますと、神様がおられます。神様から使命を受けて、賜物を与えられてこの世に生まれ、懸命に生きて、神様のもとに帰っていくのであります。

マリヤ晴美姉は、松原栄司祭、美智子姉の次女として誕生。立教学院諸聖徒礼拝堂にて受洗されたのち、栄司祭の大阪教区堺聖テモテ教会異動に伴い、按手、堅信式を経て、堺聖テモテ教会の一員として信仰生活の道を歩み出します。高校生でオルガンを本格的に始め、広島のエリザベト音楽大学宗教音楽学科パイプオルガンコースに入学、同大学修士課程を修了されました。演奏会活動のかたわら渡英し、ロンドンの教会で礼拝音楽を学ばれました。2002年からは桃山学院大学の学院オルガニストとして、礼拝や式典、コンサートなどを助けて頂きました。聖歌隊の指導者として、またお姉さん役として、学生達の悩みや進路の相談にも乗ってくださっていました。感謝です。演奏活動は国内外の多岐に渡り、溢れる才能を神様から与えられ、ご自身もそれを生かして歩んでこられました。堺聖テモテ教会のオルガニストとしても、長年ご奉仕されておりました。

ところが、神様から与えられたオルガニストという賜物を、神様にお返しする日が来てしまいました。



「神様早過ぎははしませんか。」と叫びたくなります。これからまだまだ活躍が期待されていました。ご本人もチャレンジしたいことが、山ほどおありになったと思います。残念ですし、ご本人も無念な思いがおありになったのではないのでしょうか。

長くお身体の不安を抱えておられました。しかしどこから出てくるのでしょうか。いつも前向きで希望をもって生きておられました。明るくユーモアがあって、本当に素敵な女性でした。どれほどその姿にこちらが励まされたことでしょうか。2014年ガンを発症。ここ数年、病は少しずつ彼女の体をむしばんでいきました。それでも前向きに患者さんたちの会の先頭に立ってお世話をされ、そのパワーはどこから出てくるのか、本当に感心させられてきました。ドイツに音楽の学びや旅行に行きたいとドイツ語を学んだり、マイケル・ジャクソンさんや韓国の俳優ヒョンビンさんの大ファンで、ハングルの勉強をしたり。そうしたことを本当に楽しくお話下さる方でした。

9月30日夕方お見舞いに行き、塗油式を致しました。病気からの回復を祈り求める式。ほっとしたような表情をされ、同時に涙を流されました。どのような思いがおありになったかを伺うことはできませんでした。いろいろな思いが心の中を駆け巡ったのではないのでしょうか。

聖書に「神様の愛から、何ものも引き離すことはできない。」という箇所があります。マリヤ晴美姉は神様とご家族、皆様から愛された方でした。今病気の痛みや苦しみから解き放たれて、神様の愛のみ腕に抱かれておられることを憶えたいと思います。

遺伝子学者柳澤桂子さんの言葉に「ひとりのいのちは、多くの人々の心に分配されて存在している。分配されたいのちは分配された人のものだ」というものが

あります。「いのちは自分だけのものではなく、それを憶える皆に分配されているものである。いのちは皆に引き継がれて繋がって、大きな命の流れになっている。」ということです。人が亡くなることを「息を引き取る」と申します。お医者さんは「今息をお引き取りになりました。」と言います。しかしそれは、周りで見守る人からすると「その息を私たちがいただく」、「生き”を引き取らせていただく」のであります。いのちは引き継いでいくものなのです。

マリヤ晴美さんはいろいろな目に見えない思い出、ことば、信仰の遺産を、残してくださいました。私たちはそれを引き継ぎたい。いのちをいただきたいと思えます。そして、キリスト教の信仰には復活の信仰があります。いつの日か、神様の前で、新しい身体で相まみえる日が来ます。死は終わりではなく、新しい世界への旅立ちであります。マリヤ晴美さん、また会いましょう。マリヤ晴美姉の魂の上に大なる平安が、深い悲しみの内にあるご家族の上に深い慰めと力添えがありますように、祈ります。父と子と聖霊のみ名によりて アーメン

(2019年10月18日 マリヤ 松原 晴美姉 葬送告別式 説教概略 堺聖テモテ教会にて)

† 聖ミカエル大聖堂のオルガンをはじめ神戸教区の礼拝音楽全般に関する、晴美氏の多大な貢献に心より感謝致します。



我が教会の音楽事情 ～神戸昇天教会編～

エレナ 河村加代子 アグネス 宮永公子
リチャード 池澤隆輝

昇天教会では、オルガニストが聖歌を選曲しています。一度の主日礼拝・聖餐式で賛美する聖歌は4曲です。陪餐聖歌はありませんが、オルガニストはサーバーとともに先に陪餐し、会衆が陪餐する間何らかの聖歌等を静かに繰り返し弾いています。使用されているチャントは関チャントです。礼拝全体の前奏、後奏もオルガン曲集等から奏楽者が任意に選んで弾いています。

奏楽者は11月現在で5人おり、そのうち2人は奏楽暦40年以上、3人は奏楽暦1年前後です。若い方が奏楽に加わってくださって、とても嬉しく感謝しています。奏楽歴の浅い人は一度の礼拝で1、2曲ずつ弾いていて、ソプラノとバスを左右1音ずつ弾くかたちをとっています。伊藤純子先生の助言があり、当教会の岡野オルガンに搭載されているストップを組み合わせることで、ソプラノの音を引き立たせながら、音の厚みを広げて、1音ずつでも遜色なく奏楽できるような試みを始めています。

聖歌の選曲は各自で行いますが、相談をし合うこともあります。まず大切なのは教会暦に沿っていることです。そして、当日の聖書日課を参照します。祈り、旧約・使徒書・福音書を読み、お話の主題に合った聖歌を選ぶために、いくつかの候補を選び、聖歌の歌詞の下に記載されている聖書の箇所を開いてメモに書き写します。聖歌集巻末の聖書日課対応聖歌番号表を参照したり、古今聖歌集を開くときもあります。聖歌を選び終えたら、しっかりと練習を重ねます。聖歌は神様への祈りですから、会衆の賛美と一つになってお捧げできるように、オルガニストが心がけと技量の両方で整えられるよう準備をします。

随分前のことですが、教会で愛唱歌のアンケートを取りました。そのなかで、オルガニストへの要望もまとめられていました。◇礼拝の退堂の聖歌は、皆が歌い慣れているものを選んでほしい。◇オルガニストのテンポと、聖歌の前奏の弾き方を統一してほしい。◇誕生月の人の愛唱歌を入れてほしい。などです。「新しい聖歌を増やせないか」について、会衆賛美と聖歌の選曲にあたって課題に感じている教会やオルガニストの方もいらっしゃると思います。このアンケートでは、有志でだけでも次週の聖歌を練習する機会を持ってほしい、という意見が掲載されています。当教会ではこの試みは、一時期主日礼拝後に会衆全体で行われていましたが、新しい曲が入らない週のほうが多いこともあり、現在では休止状態になっています。

(神戸昇天教会信徒)

神戸昇天教会での教区オルガンレッスン

ラファエラ 三木 薫

10月13日、昇天教会での教区オルガンレッスンに参加させて頂きました。

初めて伺う教会とオルガンに緊張していたのですが、聖堂の中に入るととても温かな雰囲気の中、オルガンが迎えてくれました。

伊藤先生が色々とストップで音色を作り聞かせて下さったのですが、どの音も穏やかで優しくほっとする感じのものでした。

レッスンでは参加者各自が課題とした聖歌を弾くのですが、ただ弾いて聞いてもらうだけでなく、礼拝奏楽時と同様に皆さんに歌ってもらうという事で、テンポやブレスなど注意すべき事を確認できました。また、自分の奏楽予定の曲を他の方が課題としてレッスンする時は、自分とどう違うのか、どんな音色を作っているのかなど、参考にさせてもらえました。これは、一人で練習している時には出来ない事なので、レッスンに参加する醍醐味だと思います。他にも上手く弾けない時の練習の仕方や、どうしても難しい曲の弾き方も教えていただき、日々の練習に活かしています。

最後になりましたが、今回会場をこころよく貸して下さいました昇天教会の皆様、レッスンを企画して下さいました伊藤先生、教区オルガン委員会の方々にお礼申し上げます。
(神戸聖ミカエル教会信徒)



「聖歌のメロディによる祈り～入門編～」

—まったくの初歩から一歩ずつ—

ダビデ 遠藤 陽平

礼拝において、間を埋める「間奏」は、多くのオルガニストにとって悩ましいものとなっているのではないのでしょうか？出来合いの曲で、その間を埋める事には何の問題もありませんが、直前、または直後に歌われる聖歌のメロディをシンプルにアレンジして弾くことによって、礼拝の流れの中に音楽を自然に溶け込ませることができます。また、礼拝で用いるという目的は無くとも、普段の練習の中で、聖歌の「自分だけのアレンジ」を試みることは、私たちが神様から与えられた「創造性」という賜物を磨くことに繋がるかと思えます。

しかしながら、多くの人にとって「聖歌のメロディをシンプルにアレンジする」ことは全く「シンプル」なプロセスではないでしょう。楽譜がないと何を弾いたら良いか分からない、何から始めたら良いか分から

ない、というのは、オルガンの勉強を始めた当初の私自身の悩みでもありました。

私は10年以上米国に滞在している中で、聖歌の即興やアレンジに関する様々な書籍を読み、マスタークラスにも参加しましたが、大きな成果を得る事はできませんでした。書籍に書かれていること、マスタークラスの講師が言っていること、理解はできましたが、いざ実践をしようとする、全く、何もできない自分がいました。結局は、書籍の執筆者、マスタークラスの講師は「一部の才能のある人達」であり、自分を含めた「才能のない人達」は、音楽を創る事は不可能なのか？と思ったりもしました。

私の即興に対する価値観を変えたのは「Ethnomusicology (音楽民族学)」という学問を通してでした。この学問を通して様々な民族音楽に触れる事ができたのですが、多くの民族音楽の中心が「即興演奏」であり、世界中で多くの人々が即興演奏を通して神様を讃えている事を知りました。音楽民族学では、即興演奏の分析が学問の中心にあるため「即興」とは具体的には何か、どのように学べばいいか、についての議論が盛んに行われています。その知識を通して「音楽を創り出す」という行為の具体的なプロセス、そしてその知識をどのように聖歌のアレンジに応用すれば良いかを自分なりに学べました。そして、今では自信を持って、自分を含めた誰しもが「即興」「作曲」「アレンジ」を学ぶことができる、と言うことができます。

この原稿で全てを伝えるのは不可能ですが、全ての音楽には、それぞれの音楽スタイルを特徴づける「材料」のような物が無数にあり、その「材料」のいくつかの「使い方」、そしてそれぞれの材料同士の「組み合わせ方」を学ぶことによって、そのスタイルに沿った音楽を創り出す事ができます。即興演奏を中心とする音楽のジャンルでは、そのように音楽を学びます。西洋音楽教育も以前はそのような教育をしていましたが、18世紀以降の中流階級、アマチュア・ミュージシャンの勃興とともに音楽教育のニーズが変わり、現在では、楽譜に書かれた音符を正確に弾く事が西洋音楽教育の中心となってしまっています。残念ながら、音楽大学に行っても、現代の音楽理論の主流である「機能と和声」では、音楽の分析に重点が置かれているため、音楽を創造する力を得る事は難しい環境になっていると思えます。

西洋音楽を特徴づける「材料」は、星の数ほどあり、全てを同時に学ぶのは難しいため、簡単なものから一つずつ着実に学んでいく必要があります。今回は「6度の和音（ドからラの音程）」という材料を紹介し、この材料の使い方の一つに「平行に使う」があります。

神はわがやぐら
(聖歌 453 番)



日暮れて闇ふかまり
(聖歌 31 番)



色々な聖歌を「6度の和音」を「平行に使い」最初から最後まで弾ききってみてください。6度の和音を使い聖歌の伴奏を「創った」感想はいかがでしょうか？まだ、礼拝という場で実用するにはシンプルすぎる、何かが物足りないと思うでしょう。ただ「6度の和音」には、これ以外の使い方もいくつかあり、また、「6度の和音」と他の「材料」を組み合わせることによって、シンプルながらも芸術的な化学反応のような事が起こせます。このように、いくつかの「材料」を組み合わせることによって、「間奏」に適した音楽を創り出すことが可能になります。

「材料」とその「使い方」「組み合わせ方」を根気強く一つずつ学び、自分の頭の中の工具箱に貯めていくことで、いつしか一瞬、無意識の間にそれらの「材料」を頭の中から取り出し「組み合わせる」ことができるようになります。この無意識のプロセスでは、自分が考えもしなかった材料の組み合わせ方をすることもあるでしょう。これが即興の正体であり、即興は一部の人にしかできない芸術ではなく、誰もが学ぶことができます。私見ですが、私達に与えられた創造する力を磨いていくことは、私達の魂を磨いていくことに繋がるのではないのでしょうか。(次号に続きます。)



執筆者 ダビデ 遠藤 陽平

Yohei Endo

立教大学在学中に、スコット・ショウ、三浦はつみ、崎山裕子、伊藤純子の各氏の下でオルガンの勉強を始める。その後渡米し、イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校で音楽博士号を取得。現在イリノイ大学キャンパス内マッキンリー長老教会にて、音楽監督・オルガニストを務める。

オルガンレッスン報告 (2019年6月~11月)

★教区レッスン (会場の記載がない月は聖ミカエル大聖堂にて)

6月 (神戸国際大学諸聖徒礼拝堂/10人、聴講1人)
7月 (8人) 8月 (6人) 9月 (6人)
10月 (神戸昇天教会/11人、聴講3人) 11月 (5人)

★神戸聖ミカエル教会レッスン

6月 (教区と合同)、7~11月

行事報告 (2019年6月~11月)

★オルガンミニコンサート

6月19日 (日) 14時~

演奏 片桐聖子氏

(日本基督教団神戸教会オルガニスト)

参加者 約120名

演奏曲目 A.ヴィヴァルディ・
バッハ：協奏曲イ短調 BWV593
/F.A.ギルマン：グラン・コア
ニ長調 op.18 他



★唱詠夕の礼拝(聖ミカエル教会夕の礼拝と合同)

10月27日 (日) 17時~

司式 執事 テモテ 遠藤洋介

説教 司祭 パウロ 瀬山公一

奏楽 ルツ 原田里香子

指揮 喜多ゆり 奉唱 教区聖歌隊

★オルガンミニコンサート

11月10日 (日) 14時~

演奏 伊藤純子氏 (神戸教区オルガニスト)

参加者 約150名

演奏曲目 バッハ：主イエス・キリストよ、我をか
えりみ給え/アラン：オルガンのためのふたつのコラ
ールより「ドリア調コラール」/メンデルスゾーン：
「ソナタ4番」より第2、3、4楽章 他

パイプオルガン会報事務局 (神戸教区事務所)

〒650-0011 神戸市中央区下山手通5丁目11番1号

☎078-351-5469 fax(078)382-1095

Email:aao52850@syd.odn.ne.jp

会報誌編集人

司祭 ダビデ 林 和広 (高知聖パウロ教会牧師)

ハンナ 塚田 恵里 (神戸聖ヨハネ教会信徒)

マリア 福島 薫 (神戸聖ペテロ教会信徒)